

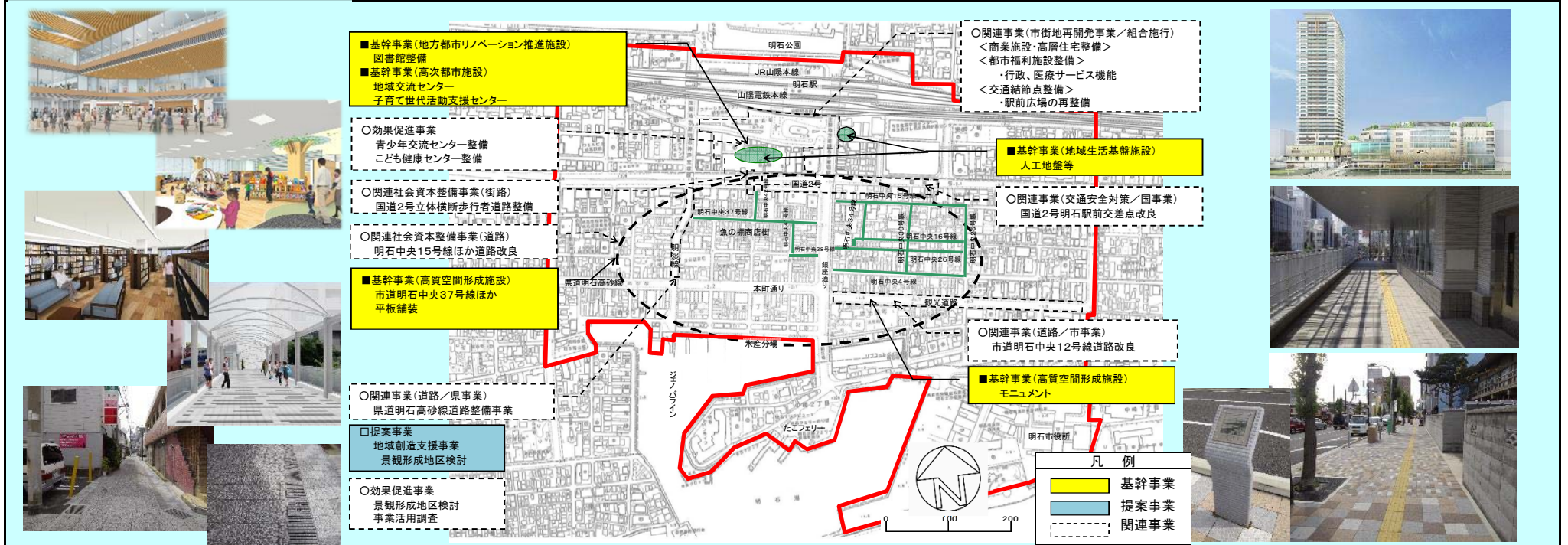
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	兵庫県		市町村名	明石市		地区名	明石市中心市街地地区			面積	60.0ha			
交付期間	平成23年度～平成27年度		事後評価実施時期	平成27年度		交付対象事業費	5606百万円		国費率	0.5				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名											
			基幹事業	地域交流センター(高次都市施設)、平板舗装など(高質空間形成施設)、情報板(地域生活基盤施設)										
	当初計画から削除した事業		提案事業	景観形成地区検討・観光案内施設整備・子育て支援施設整備(地域創造支援事業)										
			事業名			削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	新たに追加した事業		基幹事業	情報板(地域生活基盤施設)			他事業において整備することとなったため				影響なし			
			提案事業	観光案内施設整備・子育て支援施設整備(地域創造支援事業)			基幹事業として実施することとなったため				影響なし			
交付期間の変更		当初	平成23年度～平成27年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		影響なし							
		変更	—		—		—							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	駅前観光施設利用者数	人/日	120人/日	H22	160人/日	H27	262人/日	○	あり	●	再開発ビル内に地域交流センターとしてイベント空間が創出されることにより、様々なイベント開催の機会が増え、さらなる利用者数、案内者数の増加が見込まれる。	平成28年4月頃	
	指標2	歩行者・自転車通行量	人/日	20,120人/日	H22	21,000人/日	H27	19,122人/日	19,352人/日	×	あり	●	再開発ビルが完成していないため、目標値に達成していないが、完成後は再開発ビル内に整備される新しい公共施設の来客効果に加えて、直結した立体横断道路などの整備により、回遊性が増加し、通行量の増加が見込まれる。	平成29年10月頃
	指標3	歩行者空間満足度	%	18%	H22	36%	H27	41%	○	あり	●	それぞれの街並みに応じた雰囲気演出できるような道路空間の美装化を行ったことから、歩行者の満足度が向上した。	なし	
指標4	図書館の来館者数	人/日	1,022人/日	H22	2,000人/日	H27	978人/日	×	あり	●	新図書館が完成していないため、目標値に達成していないが、完成後は駅から近接する場所に、施設規模や内容、時間帯なども充実する市民ニーズの高い図書館を整備することから、来館者数は大幅に増加が見込まれる。	平成29年10月頃		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	その他の数値指標1	なし												
	その他の数値指標2													
その他の数値指標3														
4)定性的な効果発現状況	都市再生整備事業の核事業である市街地再開発事業が、H28年11月～H29年3月完成予定であるため、数値的な目標まで定まらず、完成オープン後でなければ効果が確認できない状況にある。しかし、歩行空間整備は一部完了しているため、歩行空間満足度への評価のみ確定値を得ることができた。市街地再開発事業の工事が着手されているため、「まちが変る」ことへの期待が反映したものとみられる。目標指標のうち1つしか確定値を得ていないが、「まちが変る」ことへの期待が定量化できない定性的な効果としてうかがえる。													
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等			
	モニタリング		国道2号南側調査地点における休日平日平均歩行者・自転車通行量(8時間)を測定			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● 今後も引き続き定点観測を行い、回遊性の状況を確認していく。			
	住民参加プロセス		明石駅前再開発事業のパブリックコメントの実施 明石市中心市街地活性化協議会都市基盤整備分科会の開催			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● 今後はビル内公共施設の運営や内容についても市民の意見を参考にしながら進めていく。また、再開発事業などの事業が完成後、その整備効果やまちの変化について意見交換を行い、次の施策の参考とする。			
	持続的なまちづくり体制の構築		明石市中心市街地活性化協議会の開催			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● 今後も引き続きまちづくり会社と商工会議所が事務局となり、市は後方支援しながら進め、策定予定の第2期中心市街地活性化基本計画についてもフォローアップしていく。			

様式2-2 地区の概要

明石駅前中心市街地地区(兵庫県明石市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
【大目標】 人々の暮らしを、海、食、時で彩るまちに 【目標1】 『便利で暮らしやすいまち』にする (ハード・ソフトの相乗効果で、暮らしを支える中心市街地の存在感を強化する) 【目標2】 『一歩足を伸ばして楽しめるまち』にする (気軽に足が向くように回遊環境を改善し、多様な地域資源と都市機能を磨く)	駅前観光施設利用者数	単位: 人/日	120人/日	H22	160人/日	H27	262人/日	H27
	歩行者・自転車通行量	単位: 人/日	20,120人/日	H22	21,000人/日	H27	19,352人/日	H27
	歩行者空間満足度	単位: %	18%	H22	36%	H27	41%	H27
	図書館の来館者数	単位: 人/日	1,022人/日	H22	2,000人/日	H27	978人/日	H27



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の核事業である再開発事業が完成していないことから、計画期間内の目標数値の達成が難しい状況となっている。ただし、事業は順調に進んでおり、計画内容も市民ニーズを踏まえて見直していることから、完成後の目標数値の達成が見込まれる。 ・歩行者通行量については、ハード整備において核事業である再開発事業が未完成であり、周辺の工事箇所も多い状況だが、ほぼ横ばいを維持している状況であり、商業者自らが実施しているその他ソフト施策などの効果もあって低下を食い止めていると考えられる。 ・歩行空間の満足度は、街並みに応じた歩道の美装化や拡幅を行ったことから、増加したと思われる。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も更なる賑わいの創出が必要であり、通行量の増加を目指した回遊性の向上だけでなく、まちの魅力そのものを高めていくことが必要となることから、第1期計画で整備した施設について最大限に活用するなど、特にソフト施策を中心に文化的な事業もおりませながら施策展開を図るべきこと。 ・第2期明石市中心市街地活性化基本計画に基づき、活性化事業の推進と事業進捗状況の把握、まちの課題の変化への対応など、官民一体となって適切にフォローアップしながらまちづくりを進めていく。